



2024年2月9日

各 位

会 社 名 サクサホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 齋藤 政利
(コード番号 6675 東証スタンダード)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション室長
蓬田 健二
(TEL. 03-5791-5586)

新中期経営計画を見据えたキャピタルアロケーションの考え方に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、キャピタルアロケーションについての基本的な考え方について決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 公表の経緯

当企業グループは、2021年度から2023年度の3か年を計画期間とした中期経営計画の達成に向けて取り組んでおり、当事業年度が計画期間の最終年度であります。

経営数値については、目標をクリアする予定ではありますが、地政学的な問題、かつ気候変動に伴う部品入手難に対する部品調達のリジリエンスの向上、不適切な会計処理関わる再発防止策（ガバナンス再構築）の実装などに注力してきたため、事業ポートフォリオ変革の実現に向けた投資には至っておりません。

このような背景の中、本年5月に開示予定の2024年度以降の中期経営計画（以下「新中期経営計画」という。）の策定を進めており、その中で「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について公表予定ですが、新中期経営計画の開示に先立ち、当企業グループのキャピタルアロケーションの基本的な考え方について、公表するものであります。

2. キャピタルアロケーションの基本的な考え方（別紙参照）

成長投資、株主還元および財務体質の健全化のバランスを確保しながら、経営資源を配分し最適な資本構成を維持することを基本的な考え方とし、当企業グループの持続的な企業価値向上に努めてまいります。

具体的には、中長期的な財務健全性を維持しつつ、営業キャッシュフロー、保有資産の有効活用および有利子負債の活用によるキャッシュインを原資に、資本コストを意識した「成長および育成領域への投資」、人材を資本として捉え、その価値を最大限に引き出すための「人的資本投資」、デジタル技術を活用した企業変革を進める「DX投資」ならびに生産工場を主体とした「設備の維持・更新投資」に重点配分しながら、株主還元を実施するものです。

以上

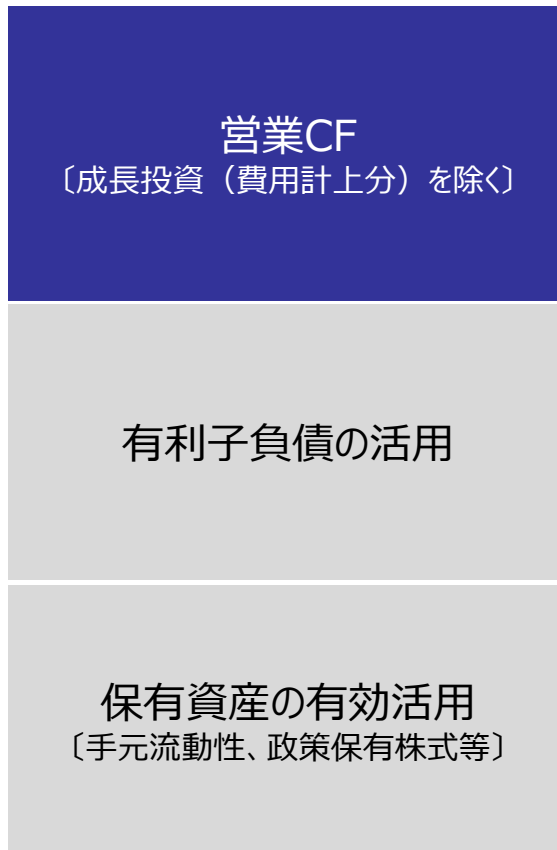
別紙 キャピタルアロケーションの基本的な考え方（イメージ）

持続的な企業価値向上に向けた最適な資本構成の維持

- ・D/Eレシオを意識し、財務規律を確保したうえで、投資枠の設定と株主還元を実施
- ・運転資本や手元流動性等の精査も行い、安定的な経営と成長投資の実行に資する財務健全性を確保

- 事業利益率の改善、在庫の適正化
各種コスト削減、運転資金の見直し
等による、営業CFの増加に向けた取
組み
- 財務健全性を確保しつつ有利子負債
を活用。最適資本構成や資本コスト
(WACC)を意識
- 政策保有株式の縮減
〔参考〕 2021-2023中計期間
10銘柄縮減/約50銘柄
- 手元流動性等、各資産の水準の
精査

キャッシュイン（新中計期間）



キャッシュアウト（新中計期間）



成長投資

- 新中計期間における成長投資金額
は、新中期経営計画で開示
- 資本コスト（WACC）を意識した投資
の実行
- 企業価値向上に資する案件に関して
は積極的に投資
- 新たな配当方針策定による株主還元
の実施（自己株取得を含む）
〔参考〕現状：配当性向30%目安